

新規実施項目のお知らせ

謹啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。
この度、新たな検査項目の受託開始について、下記の通りご案内いたします。
健康と医療の未来に貢献すべく、より良い検査サービスのご提供に努めてまいります。
謹白

記

■ 受託開始日 2024年12月23日(月) ご依頼分より

■ 新規項目内容一覧

項目コード (旧項目コード)	検査項目 JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査 方法	基準値 (単位)	備考
00X25 0 (OX25 2)	TARC (薬剤性 過敏症症候群) 5J228-0000-023-052	血清 0.3	S09 ↓ A00 (X)	冷蔵 (28日)	2~4	179 ※6	CLEIA	4000未満 (カットオフ値) (pg/mL)	血漿はデータ低下 が見られますので 避けてください。 トロンビン入り採 血管は測定値に影 響を与える恐れが あるため使用を避 けてください。

※6：免疫学的検査判断料



● TARC（薬剤性過敏症症候群）

急性期の薬剤性過敏症症候群（DIHS/DRESS）の診断補助に有用な検査です。

TARC（Thymus and Activation-Regulated Chemokine）は、リンパ球の一つであるTh2細胞を炎症部位に遊走させるケモカイン群の一種（系統名：CCL17）で、アトピー性皮膚炎の重症度評価の補助を目的とした検査として広く活用されています。

薬剤性過敏症症候群（DIHS/DRESS）は、発熱、臓器障害、ヒトヘルペスウイルス6（HHV-6）の再活性化を伴う重症薬疹であり、その他汎発型薬疹（スティーブンス・ジョンソン症候群、中毒性表皮壊死症、播種状紅斑丘疹型薬疹等）と治療方針が大きく異なることから、発症早期の鑑別が求められています。

血清TARC濃度は、急性期のDIHS/DRESSでは高値を示すのに対し、その他汎発型薬疹では軽度の上昇にとどまることから、DIHS/DRESSの診断補助に有用であることが報告されています。

▼検査要項

検査項目名	TARC（薬剤性過敏症症候群）
項目コード （旧項目コード）	00X25 0 (0X25 2)
検体量	血清 0.3 mL
容器	S09→A00 (X) ポリスピッツ
保存方法	冷蔵保存してください
所要日数	2~4 日
検査方法	CLEIA
基準値（単位）	4000未満（カットオフ値） (pg/mL)
報告範囲（単位）	10未満、10~99990000 (pg/mL)
桁数	有効4桁、整数8桁、小数0桁
検査実施料	① 179点 （「D015」血漿蛋白免疫学的検査「18」）
判断料	144点（免疫学的検査判断料）
備考	血漿はデータ低下が見られますので避けてください。トロンビン入り採血管は測定値に影響を与える恐れがあるため使用を避けてください。

①

ア アトピー性皮膚炎の重症度評価の補助を目的として、血清中のTARC量を測定する場合に、月1回を限度として算定できる。

イ 薬剤性過敏症症候群が疑われる患者に対し、当該疾患の鑑別診断の補助を目的として、血清中のTARC量を測定する場合に、一連の治療につき1回を限度として算定できる。ただし、医学的な必要性から一連の治療につき2回以上算定する場合には、その詳細な理由を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

ウ COVID-19 と診断された患者（呼吸不全管理を要する中等症以上の患者を除く。）の重症化リスクの判定補助を目的として、血清中のTARC量を測定する場合は、一連の治療につき1回を限度として算定できる。

●TARC（薬剤性過敏症症候群）の留意事項

・ 免疫反応においては、一般的に非特異反応により異常高値となる場合があることが知られていますのでご注意ください。

＜薬剤性過敏症症候群（DIHS/DRESS）の診断補助＞

- ・ 以下の患者はTARC値に影響を与える恐れがあるため、正確な診断ができない可能性があります。
 - ・ 重症アトピー性皮膚炎患者
 - ・ 皮膚T細胞リンパ腫の患者
 - ・ 移植片対宿主病（GVHD）の疑いがある患者
 - ・ プレドニン換算で20 mg/日以上ステロイドの全身投与を受けている患者、
 - ・ プレドニン換算で20 mg/日未満のステロイドの全身投与を5日間以上継続されている患者
- ・ 急性期のDIHS/DRESSの診断補助を目的としているため、回復期には使用しないでください。
- ・ DIHSの重篤副作用疾患別対応マニュアルに記載の判別基準を参照し、他の関連検査及び臨床症状等も含めて総合的に判断してください。

※ 年内報告可能最終受付日は12月25日（水）、年内最終受付日は12月27日（金）となります。

●参考文献

Miyagawa F, et al : Eur J Dermatol 25 (1) : 87~89, 2015. (臨床的意義参考文献)